

学校名	鳥栖市立鳥栖中学校
達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である	
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標とそれに基づいた重点目標の実現に向けた教育活動を行い、全ての項目において、「おおむね達成できている」以上を達成することができた。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進についてはICT等を活用した業務改善にこれからも取組、業務改善に努めていく。 ・ホームページやマチコミメールを活用し、必要な情報発信を行い、さらなる開かれた学校づくりを進めていく。
2 学校教育目標	ふるさと鳥栖に誇りをもち、「学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成」
3 本年度の重点目標	①確かな学力の定着 ②豊かな心の育成 ③心身の健全な育成 ④コミュニティスクールの推進

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●生徒アンケートで、肯定的な回答をする生徒の割合80%以上。 ●定期テストの標準偏差が24以下。	・調査結果を基にした見直し、振り返りを行う。 ・校内研修会等の会議で、取組の促進を図る。	B	「分かりやすい授業のために先生達は工夫していると思う」と回答した生徒は94.6%であり、成果指標を上回った。 ・後期中間テストでは、1年2教科(数学・理科)、3年1教科(数学)で標準偏差24を超えていたが、前期に比較すると改善した。 ・今後も、職員が授業力向上に努めるように、校内研等を通して学力向上への取り組みを行っていく。	B	・生徒アンケートでは、成果が表れている。今後も、計画的に校内研等で取り組みを継続してほしい。
	○根拠を明確にして自分の考えを説明する活動を仕組み、思考力を育むような発問の工夫	○「条件に合わせて自分の考えを伝えることができた」に対して、肯定的な回答をした生徒80%以上	・単元(題材)を意識し、単元を見通した授業計画を行う。 ・考えを整理したり、広げたりするための「話し合う活動」を取り入れた授業実践を進めていく。	B	「話し合う活動を授業で取り入れている」と回答した教師は78.6%であり前回と同等であった。 ・「授業で交流活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができている」と回答した生徒90.7%で成果指標を上回った。 ・今後は、共通実践がさらに効果的に行えるように、校内研修会等で研修を行っていく。	B	・生徒アンケートでは、肯定的な回答が90%以上あり、成果が表れている。今後、教師の共通実践の教師アンケートが向上するように校内研修を推進してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育の全体計画に基づいて授業を行った教師80%以上 ○人権・同和教育に関する意識が高まった生徒80%以上	・各学年ごとに、共通理解のもと共通教材を用いながら道徳の授業を実施する。 ・12月の人権週間において、生徒を主体とした取組を行い、人権感覚を高める。	A	「全体計画に基づいて授業を行った」と回答した教師は96.2%。「思いやりや人権を大切にする意識をもっている」と回答した生徒は98.2%であり、成果指標を上回った。 ・各学年、ローテーション道徳を実施した。オリジナル教材をつたり、学活との連携を密にした教材を扱い、各学年の状況に合った授業を行うことができた。 ・来年度も、年間計画を立て見直しをもって、道徳教育を教職員全員ですすめていく。	A	・道徳教育、人権・同和教育は、計画的に実施されており、生徒の回答からも、心の教育が充分に実践できていることがうかがえる。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○教育相談、生徒指導等との連携、充実。早期発見、早期対応のための体制作りを強化し、いじめ防止等のための取組について組織的対応ができていると回答した教師80%以上	・毎月10日の「鳥栖市いじめ・いのちを考える日」に生活アンケートを実施する。 ・週に1回、生徒指導委員会を開催し、いじめに関する情報の共有と対策に努めていく。	A	・いじめ防止等に対応した組織的な取り組みができている、「不登校生徒への組織的な対応ができている」と回答した教師は共に89.3%であり、評価指数を上回った。 ・生徒指導委員会を毎週欠かさず開催し、情報の共有や対応について共通理解し、課題解決に向けて話し合うことができた。 ・いじめ事業では、各学年で迅速に対応することができた。今後は、情報共有の場を多く設定し、学年の枠を超えた組織的な対応を行っていく。	A	・、いじめ防止や不登校生徒への対応は、充分に実践できている。今後も、組織的に対応することを意識しながら継続してほしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・体育大会や文化発表会、平和集会等の学校行事で、多くの生徒に出番を設定し、承認する場を設定していく。 ・生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。	B	「学校内に自分を認めてくれる生徒や先生がいる」と回答した生徒は92.7%であり、前回を上回った。 ・「将来の夢や目標を持つことができています」と回答した生徒は72.6%であり、前回とほぼ同様であった。 ・生徒が中心となって、プルタブ回収や赤い羽根募金、人権週間の取組を行うことができた。 ・今後も、生徒の実態に応じた取組を計画的、継続的に行っていく。	B	・今後も、生徒が主体的に取り組める活動を行っていくことが大切であると思う。次年度は、行事等で、生徒が主体的に取り組む機会をつくってほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・関連する教科等において、食に関する指導の視点を位置づけて指導する。 ・給食だよりや保健だより、健康委員会による校内放送で、3食の食事の大切さ、一日の生活リズムを整えることの大切さを周知する。 ・保護者会や懇談会などで、生活習慣(食生活)についての共通理解を図る。	A	「毎日3食(朝・昼・夜)、きちんととっている。」と回答した生徒91.8%で、成果指標を上回った。 ・昼の放送で、健康委員が3食の食事の大切さ、一日の生活リズムを整えることの大切さを欠かさず発信することができた。また、給食だよりや保健だよりでも月に1回発行することができた。 ・今後は、「食」以外のものにも焦点をあて、学校生活の中で健康に対する取り組み内容を増やし取り組んでいく。	B	・食事以外にも、生活において早寝早起きを心がけることは大切なことである。今後、生徒や保護者に啓発して行ってほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・ICTを活用した連絡掲示板やペーパレスの会議を行い、会議時間の短縮に努める。 ・見通しをもった活動を促すため月行事、週案の提示を適切に行っていく。 ・毎週月曜日のノー部活デー、定時退勤日を励行する。	B	「業務改善の視点をもって、業務に取り組んでいる。」と回答した教師82.1%であった。 ・連絡掲示板やペーパレスの会議により、会議時間の短縮することができた。 ・ノー部活デーは徹底できたが、定期退勤日は完全に徹底することができなかった。 ・今後も継続して取り組み、時間外勤務の改善に努めていく。	B	・授業参観では、丁寧に授業をされており、授業の準備も大変なのではないかと感じた。健康に留意しながら、改善に向けた取組を継続してほしい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学習率80%以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公	・小中一貫教育の柱として位置付け、小学校での取組との一貫性を重視しつつ体験型の授業を取り入れながら、各学年で計画的に行う。 ・学級通信や学年通信、ホームページ等で、	B	・各学年授業参観で教科「日本語」の授業を公開し、研究発表会でも授業を公開することができた。 ・授業の様子を、ホームページ上で紹介することができた。 今後は、教科「日本語」の授業の取り組みをホームページだけでなく、通信等で発信していく。	B	・次年度、教科「日本語」の授業公開や通信等での発信等を、さらに行ってほしい。
○進路指導の充実	◎夢や目標を持ち、主体的に学び生き生きと活動する生徒の育成	★学校評価アンケート(生徒)の項目16「将来の夢や目標をもつことができています」に当てはまる生徒が80%以上である。	・3年間を見通した進路計画のもと、図書やタブレット等を活用した進路学習を行う。 ・進路説明会や入試説明会での情報を、1・2年生にも共有できる環境を整備する。	B	「将来の夢や目標をもつことができています」と回答した1年生70.7%、2年生70.9%、3年生は77%で、3年のみ前回を上回った。 ・「職業調べ」や「高校調べ」で、図書やタブレットを活用した効果的な学習をすることができた。 ・今後は、特別の教科道徳等、他教科との横断的な連携が図れるように計画して行っていく。	B	・生徒アンケート「将来の夢や目標をもつことができています」の項目で、1年生が低く、学年が上がるにつれ高くなっている傾向は当然だと考える。今後、地域と連携した取組を充実させていくことも有効だと思う。
○開かれた学校づくり	○学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進	○「学校は必要な情報提供を行っている」に肯定的な回答をした保護者80%以上	・ホームページやマチコミメールを活用し、迅速に情報を発信する。 ・ホームページを1ヶ月に1回以上更新する。	A	「学校はホームページやマチコミを活用し、必要な情報提供を行っている」と回答した保護者は87.7%であり、成果指標を上回った。 ・ホームページの更新回数は、昨年に比べ大幅に増やすことができた。 ・緊急連絡はマチコミメールを活用し、迅速に情報発信することができた。 ・今後もホームページやマチコミを活用し、継続して情報発信を行っていく。	A	・ホームページやマチコミを活用し、情報発信が充分にできていた。今後も、情報発信を継続してほしい。

●・・・県共通 ★・・・鳥栖市共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・多くの項目で、成果指標を上回っているが、「進路指導の充実」では、成果指標(数値目標)を達成することができなかった。次年度は、生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動を計画的に行っていく。 ・いじめ事業の対応や不登校生徒の組織的対応では、アンケートの数値で改善が見られた。次年度も、引き続き生徒指導対応や不登校対策に力を入れ、全職員で取り組んでいく。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」では、今後も継続して、業務改善に取り組むことで、教職員の資質向上に努めていく。
--------------------	---